

令和2年度授業改善推進プラン

清瀬市立 中学校第3学年

	授業における課題や学力調査資料から見た課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<p>・市内他校と比較すると正答率は市内が11.5、本校が11.1と同程度であるのに対し、「文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、内容を捉える」問題、「文章の展開に即して内容を捉える」問題の正答率が10%程度低い。また、「自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書く」問題では、市内他校と比べ、正答率は高いものの、無回答率も他校に比べ4%高かった。</p>	<p>・ただ文章を読むのではなく、文章の構成を意識して論理的に読むことを授業で意識させる。また、それに即した演習を増やす。                      ・授業でも「書くこと」について苦手と感じている生徒は多い。作文の構成や言葉遣いの基本を習得させ、苦手意識を除くとともに、作文を互いに読み合い認め合うことを通して、「読み手に伝わるように工夫して書く」ことの楽しさを味わわせたい。</p>	<p>都立入試の模擬テストに取り組みせ、文章の構成を意識して論理的に読むことを指導してきたが、十分な成果上げたとは言えなかった。作文指導は個別に丁寧なアドバイスをすることにより、積極的に書く生徒も見られた。</p>
数学	<p>・基礎的な計算等については、少しずつ力をつけてきているが、文章題は、そこに書かれている数量の関係を式に表すことに困難を抱えていたり、そもそも文章を読むこと自体をあきらめる生徒もいる。                      ・全国学力調査の結果を振り返ると、資料の活用分野は達成率が高く、全体としてよく理解されている。一方で文章で説明するような問題については、正答率が低く、無回答率も高い。</p>	<p>・文章問題は、まずしっかり読ませることから始め、その中の数量の関係を式に表すことを繰り返し行えるよう、演習を増やす。                      ・言葉で説明するような解答になる問題については、基礎的な問題を大切に、繰り返し取り組みさせることで、解法の手立てを身に付けさせる。</p>	<p>・基本的な問題については、都立入試大問1を中心に繰り返し取り組みせ、ある程度の力をつけることができた。                      ・文章題や証明問題についても、問題演習を繰り返す中で、取り組み方を丁寧に説明し、それなりに力がついた生徒も増えたが、十分とはいえない。</p>
社会	<p>まじめに授業に取り組んでいるが、基本的な知識や理解がなかなか定着していない。特に思考・判断・表現の技能を高めるための課題に取り組む必要がある。資料を正確に読み取り、判断する力を向上させたい。</p>	<p>思考・判断・表現に関しては、授業形態、発問を工夫し、知識を活用する機会を継続して行う。また、資料の読み取り、それをうけて仲間との対話を増やし、問題を解く過程で多角的・多面的に思考できるよう工夫し指導していく。</p>	<p>問題集や繰り返しの学習で基本的な内容をある程度理解できている生徒が増えている。授業形態として対話的な活動ができなかったが、ノートにまとめたり、発問、発言をクラスで共有したり、テストの取り組みなどで考え方を身につけてきている。</p>
理科	<p>課題に対して多くの生徒が真面目に取り組む。反面、授業中の発言頻度は差が開いており、質問に対しじっくりと考えなければ答えを導けない生徒が多い。テストなどの結果からは「物理的領域」の達成率が低く、「科学的な思考・表現」の定着率が低い。</p>	<p>実験観察を中心とした授業展開を行う。事前の授業では重要語句や既習事項の確認を徹底する。事後の授業では実験の方法の理解や、結果から導き出される法則などの考え方を丁寧に身につけさせる。また、事後には問題演習を行い、学習事項の定着と問題解決能力を育成する。</p>	<p>・重要語句や基本的事項については繰り返し学習していく中で身につけさせることはできた。                      ・実験結果や観察結果から法則性を導きだしたり、その法則を他の事項へ適用させ、新たな課題へとつなげていく思考過程の定着が課題である。</p>
音楽	<p>器楽活動に際立った能力の高さを感じさせる。基礎知識がしっかりと身についており、正確な演奏をすることが出来る。目立って能力が低い生徒が見当たらないのも良い。課題としては、歌唱活動の意欲・技能両面の低さが挙げられる。他教科の授業を観察させてもらったが、そもそも声を出すことに抵抗感がある生徒が多いようだ。</p>	<p>歌唱活動を伸ばしていきたい。まずは声を出すことに対する抵抗感を軽減していきたい。具体的な方策として、教員が先導して歌唱することが挙げられる。最初は教員の声に隠れる形で歌唱を行い、徐々に教員の声を落としていく方法を用いる。また、音程がとれない生徒に関しては、1人あたり数秒の開始音の個別チェックを行い、自信を付けさせていく。</p>	<p>器楽分野で大きく成長した。合奏にも意欲的に参加した。鑑賞分野では例年の倍近くの時数を取らざるを得なかった。少し疲れが見えたように感じるが、文章表現は豊かであった。歌唱分野では全く歌わない、歌えない生徒が歌うようになるなど、環境作りはできたように思う。</p>
美術	<p>技能の習得について、面倒なことを避け、理解しようとしないう生徒が多いが、実技を伴う技能の習得には興味を示す。                      また、作品が完成する達成感を持っていない生徒も多い。興味や関心を持ちながら取り組める教材を精選する必要がある。</p>	<p>取り組んだことがすぐ結果として見える課題を多く用意し、段階的に技能が身につけていくように教材の工夫をする。                      自分が制作したいものに対して、完成までの道のりの全体像もつかませながら、途中の段階の小さな目標を設定し、そこに到達する手助けを心がける。</p>	<p>概ね目標を達成することができた。スモールステップを意識させ、毎時間の目標を大事に授業した。                      一部、制作に乗り切れない生徒への援助が課題として残った。</p>
保健体育	<p>男子は運動に対する意欲・関心が高く、基礎的な体力、運動能力も高い生徒が多い。女子は意欲・関心もあり、頑張り気持ちはあるが、能力的に厳しい生徒も少数いる。そのような中、お互い励まし合って学び合うことが多い。男女共に目的意識を持たせ、その運動の特性にたくさん触れさせてあげることが必要である。指示されたことに対しては、動きも良く積極的に行動できるが、思考を深めて自ら工夫し、主体的に実践していくことが課題である。</p>	<p>運動量を確保するためにも、生徒主体の活動を確保するためにも、アメージメント行動(準備・移動・待機)の少ない授業を行っていく。また、各種目に応じて自己やグループの能力を知り、適切な課題設定と学び合いができ、主体的に取り組める力をつけていく。さらに、最上級生としての自覚を促すように自主性を大切に指導していく。</p>	<p>コロナ禍で指導に制約がある中、工夫しながら体力の向上に努めることができた。                      球技系の種目に限らず、持久走など辛い競技においても努力できる生徒に成長したことは3年間の成果である。</p>
技術・家庭	<p>年間授業時数が少なく、より緻密な授業計画を立てる必要がある。興味・関心を高めるコンピュータ関連の授業を情報処理関係の知識を高めていく必要がある。                      家族の立場と役割について関心を持ち、幼児の生活について、意欲的に学習しようしているが、実生活との関連を考えさせる必要がある。</p>	<p>課題を明示して、計画的に作品作りに取り組めるような授業を展開する。情報処理関係の授業を充実させ、ネット社会でのモラルの大切さを理解させる。                      自分の生活や家族について、課題を見つけ工夫させ、幼児の生活の発展に応じて必要な条件を学ばせる。「幼児の絵本」を制作・読み聞かせ等で、幼児に対する興味・関心を深めていく。</p>	<p>製作実習を通して目標とする内容を学習できた。また情報機器を活用し1学年からの振り返りを行うことでその内容をより深めることができた。                      幼児の絵本を制作し、読み聞かせ等の発表を通して、幼児に対する興味関心を深められた。</p>
外国語(英語)	<p>「聞くこと」は放送内容の概要や必要な情報を聞き取ることはできるが、正確に聞き取るレベルまでは課題が残る。「書くこと」は、テーマについて自分の考えをまとめた文章で表現する力が弱い。語彙力不足・文法の理解不足が原因とみられる。                      「読むこと」は、まとまった英文を読んで、内容の主旨をとらえる力が弱い。特に、書かれた内容に対して自分の考えを示すことができないで話の内容を理解することができない。</p>	<p>既習の文法事項をくり返し復習できるように、帯時間の使い方を工夫する。新文法事項については、これまで通り自作のワークシートを使いながら導入から定着まで段階的に学習を進められるようにする。単元ごとに小テストを実施する。条件作文などを数多く練習する。                      ・まとまった英文を聞いたり、読んだりしながら、文法上の知識を駆使して正確に理解できるように、授業の中で練習する。基礎力を確立するために教科書的首読に力を入れる。発問を工夫し、考える習慣をつける。                      ・ALTの授業でのスピーキング活動をより充実する。</p>	<p>・授業を真面目に受け、小テストなどにも真剣に取り組む生徒がほとんどで、進行はスムーズだった。しかし、家庭学習の習慣が定着しきれない生徒が多く、習った事を積み重ねて力にしていける点で弱かった。したがって、都立入試の長文読解、英作文では苦戦する生徒が多かった。                      ・ALTとのコミュニケーション力は、ほぼ全員が向上した。同じALTが2年間担当していたことも大きいと思われる。</p>
総合	<p>テーマの設定、調べ学習、調べた内容を分かりやすくまとめる力が着いてきている。プレゼンテーションソフトを使った発表にも意欲的に取り組み、聞く側が興味を持てるような工夫ができる生徒が増えてきた。</p>	<p>テーマ設定までの学習を深め、興味を持ったテーマについて調べ学習を進める中で、自らの考えを深められるように導いていく。また、物事に対する多面的な見方を身に付ける。</p>	<p>「修学旅行」「人権」に関するテーマを各生徒が設定し、調べ、パワーポイント形式で全体の前で発表を行った。                      ・「卒業研究」として中学3年間の学習を通して各生徒が一番興味をもった内容でテーマ設定をし、自主的に調べパワーポイントにまとめて発表した。</p>
道徳	<p>ほとんどの生徒が道徳的価値を見出そうと、教材と真剣に向き合い、登場人物になりきって心情をとらえたり、発問に対する考えを、口頭や文章で表現している。                      ・意見交換をしながら他者の考えに耳を傾け、参考となる考えや意見を書き留め、考えを深めている生徒もいる。その一方で、あまり自分の考えを持たず、他の生徒の考えに流される生徒も見受けられる。                      ・自分自身をふり返り、これからの生活に活用していこうと考える生徒が多いが、実行するまでには課題が残る。</p>	<p>・年間計画にそって、できるだけ生徒の状況に合ったものを選んで教材を設定している。                      ・自分の考えをまとめる時間を十分に設定し、その後班やクラスで活発な議論や意見交換ができるように発問や声かけを工夫している。また、意見のまとめや発表のやり方においてもホワイトボードを利用するなど工夫している。                      ・学年で、授業計画や進行、生徒の反応などについて意見交換している。</p>	<p>・各クラス、計画通りに実施し、全内容項目をおさえることができた。                      ・各生徒、教材のねらいに沿って考え、自分の意見を表現し、友達と意見交換をしたりしながら、考えを深めたり見解を広めることができた。                      ・教科書はあるのだが、その都度必要な教材を選定することも必要だと思われる。</p>